

# 婦人科疾患手術後の陰部洗浄に対する患者の思い ～ベッド上での陰部洗浄～

2階西病棟

○佐野 佳代 吉良 佳世

キーワード：婦人科疾患をもつ女性患者、ベッド上での陰部洗浄・ベッドパン使用

## はじめに

婦人科疾患術後の患者に行う陰部洗浄は尿路感染予防の他、創部の観察、出血の有無の確認、帯下の状態の観察、爽快感を得る目的で行なわれており、術後1～2日目の床上安静の患者に対しベッド上での陰部洗浄を行っている。手術2日前に入院し、入院後手術の準備の為に術後のケアのイメージや、陰部洗浄の目的も十分理解できていないまま術後ケアを受ける事が多い。そのため陰部洗浄の場面で「ベッド上で洗浄されるのには抵抗がある」「看護師の顔が見えるので内診台より恥ずかしい」等の思いがあるのではないかと考えた。実際患者からも「さっぱりした」という言葉の外「こんな汚い所をすまんねえ」「介護されるってこんな気持ちなんですね」といった否の言葉も聞かれていた。

先行研究では、婦人科処置に対する羞恥心に着目したものや、陰部洗浄の方法検討、全身清拭の満足度等の研究は行われているが、ベッド上での陰部洗浄に対する患者の思いについての研究はされていない。私達はベッド上での陰部洗浄を受ける患者の思いを明らかにすることを目的に本研究を行ったので報告する。

## I. 研究目的

患者のベッド上での陰部洗浄に対する思いを知ることによって今後、患者一人一人の要求に見合った看護を提供することができる。

## II. 研究方法

1. 研究デザイン：質的研究
2. 対象者：婦人科手術後ベッド上で陰部洗浄を受けた患者13名
3. 期間：平成19年12月～平成20年2月
4. データ収集方法：研究枠組みに基づき半構成質問紙を作成し、面接調査を行った。面接時間は一人20分から30分程度実施した。
5. データ分析方法：KJ法、インタビューした内容を手書き記録し抽象化を繰り返す。

## III. 結果

### 1. ケアを実施した看護師の経験年数

患者	術後1日目陰部洗浄を行った看護師の経験年数	術後2日目陰部洗浄を行った看護師の経験年数
A	1年目	1年目
B	5年目	1年目
C	5年目	1年目
D	1年目	1年目
E	1年目	1年目
F	10年以上	10年以上
G	2年目	8年目
H	1年目+サポーター	2年目
I	1年目	
J	2年目	2年目
K	1年目	10年以上
L	1年目	2年目
M	1年目	2年目

## 2. カテゴリー表

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
場所	陰部洗浄を行う場所は どこでも 個室 内診台 ベッド上 部屋(2床室)が良い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッドに寝たままの状態でするので簡単で良いと思った</li> <li>・やっぱりカーテンひとつでもあったほうが良い</li> <li>・内診台に上がるよりはベッドが良い。顔が見えるのは別に何とも思わん</li> <li>・内診台よりベッドのほうが強制的に足を開かれないので良い</li> <li>・女同士やし婦人科に来たがやきどっちでも。カーテンとか気にならん</li> <li>・自分の部屋で良かった</li> <li>・2人部屋の窓側だったのでそんなに人とかも気にならんかった</li> <li>・ベッド上でも別に何とも思わんかった</li> <li>・個室やったき良かった</li> </ul>
人数	できるだけ少ない人数で 来て欲しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の時は看護婦さんが二人いて一人は見習いさんで教えながらやっていた。なるべくならば一人で来て欲しい</li> <li>・内診台は嫌や。後ろに何人ひとがおるかも分からん。</li> </ul>
時間	陰部洗浄を行う タイミング 時間 長さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝来てくれたがちょうど着替えたい時だったのでタイミング良かった</li> <li>・午前中で良かった</li> <li>・いつでも良い</li> <li>・午前・午後の2回洗って欲しい</li> <li>・短時間でしてほしい</li> <li>・「もう少ししてから体を拭きに來ますね」とか言ってくれて時間を決めることが出来たので良かった</li> </ul>
説明	術前の説明 方法の説明 を解りやすく詳しくしてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙(クニカパス)をもらってそれに沿って説明はあったけど理解出来ていなかった</li> <li>・体を拭くのは聞いていたけど看護婦さんから詳しい説明は受けていない、漠然としていた</li> <li>・説明がなかった。説明がいっぱいで自分がどうなるか心配で上の空</li> <li>・別に詳しいことは聞いていない</li> <li>・動作の前にひとつひとつ説明してくれて良かった</li> <li>・「湯をかけます」「洗います」などいちいち声掛けがあったので良かった</li> <li>・どうして洗わないかんか必要性を紙で説明してくれたら良いのに</li> </ul>
態度	良い表情 会話がほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔でしてくれて良かった</li> <li>・陰部洗浄時の看護婦の態度は上等やった</li> <li>・だまってやられるより、話をしながらの方が気が紛れるのでいい</li> </ul>
手技	お湯の温度 タオルの温度 バスタオルの使用に気を遣 ってほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かいタオルで拭いてもらえて気持ち良かった</li> <li>・お下の周りをちゃちゃっと拭きだけで良い</li> <li>・タオルを掛けるとかなく、広げっぱなしやった</li> <li>・バスタオルを掛けてくれた</li> <li>・お湯の温度はどうか？と聞かれ良いですと答えたが本当は冷たかった</li> </ul>

### 3. 婦人科手術後ベッド上で陰部洗浄を受けた患者の思いについてインタビューし、得られたデータを分析した結果、(場所)(人数)(時間)(説明)(態度)(手技)の6つのカテゴリーが描出された。

#### 1) 場所

陰部洗浄を行う場所については、どこでも良い・部屋(2床室)が良い・個室が良い・内診台が良い・ベッド上が良いなどの個人により思いに差があった。

#### 2) 人数

陰部洗浄を行う看護婦の人数については、一人で来て欲しいという思いがあった。

### 3) 時間

陰部洗浄を行う時間については、午前中・午後にして欲しいというタイミングに対する思いや、午前・午後の2回行って欲しいという回数に対する思い、短時間でして欲しいという時間の長さに対する思いがあった。

### 4) 説明

術前の説明については「説明はあったけど漠然としていた」や、「説明がいっぱい自分はどうなるか心配で上の空」「別に詳しいことは聞いていない。看護師から説明はなかった」という言葉が聞かれた。

方法の説明については「動作の前にひとつひとつ説明してくれて良かった」という言葉が聞かれた。また「どうして洗わないか必要性を紙で説明してくれたらいいのに」という希望があった。

### 5) 態度

看護師の態度については「笑顔でしてくれて良かった」「陰部洗浄時の看護師の態度は上等やった」「だまってやられるより、話をしながらの方が気が紛れるので良い」という言葉が聞かれた。

### 6) 手技

手技については「温かいタオルで拭いてもらえて気持ち良かった」「お下の周りをちゃちゃっと拭くだけで良い」「タオルを掛けるとかなく広げればなしかった」「バスタオルを掛けていてくれた」「お湯の温度はどうか？と聞かれ良いですと答えたが本当は冷たかった」という言葉が聞かれた。

## IV. 考 察

婦人科疾患術後にベッド上での陰部洗浄を受けた患者の思いは、(場所)(人数)(時間)(説明)(態度)(手技)の6つのカテゴリーに分類された。

(場所に対する思い) 同室者の存在や内診台と違い介助者の顔が見えることで羞恥心を増強させているのではないかと考えていたが、実際には内診台よりも術後は個室や2床室の事が多く介助者の顔が見えることで、むしろ安心感が得られるという事も明らかになった。しかし、仮説で述べているようにベッド上での陰部洗浄は看護師の顔が見えることで恥ずかしさが増す為、カーテン一つでもあったほうが良いという意見が聞かれた。これらの事から、ベッド上での陰部洗浄を行うにあたり内診台が良い患者は車椅子で内診台へ搬送し陰部洗浄を行う等、患者が場所を選択できるような配慮が必要であると考えられる。

(人数に対する思い) 看護師の経験年数が浅くサポーターと共にケアを実施した患者からは1人でケアにきてほしいという希望があったが、陰部洗浄に関わらず羞恥心への配慮を考えると、出来るだけ少人数でのケアを行うことが望ましい。

また2人以上でケアを行う際は、事前に患者に説明をし同意を得ておくことで患者の気持ちにも違いがあるのではないかと考える。

(時間に対する思い) 陰部洗浄を行うタイミングについては、手術後汗をかいていたので午前中で良かったという意見が聞かれたが、月経中であったため午前・午後の2回洗ってほしかったという意見もあり、看護師の都合でケアを行うのではなく、患者の状態が可能な場合、意向を伺い時間と回数の配慮をすることも必要であると考えられる。

また洗浄部位が陰部であることから羞恥心への配慮も考え短時間で爽快感を得られるような方法を今後検討していきたい。

(説明に対する思い) 術前オリエンテーションで清潔ケアについての説明を行っているが、術前には手術・麻酔の説明・病棟オリエンテーション等説明が多く覚えていない。また、実施前に看護師の説明がなかったという現状もあった。宮原<sup>1)</sup>は看護、検査、治療などといった出来事が早い速度で起こるために、起こっていることを客観的かつ包括的にみることが患者にとって難しいと述べている。このことから、患者が理解しやすい様な工夫が必要であると考えられる。

信頼関係とは効果的な看護がうちたてられる基盤となるもので大変重要であると言われている。術後ケ

アを実施するのは1・2年目の看護師が多く、コミュニケーション技術が未熟である。その為、患者とのより良い信頼関係の構築が出来ていなかった事が患者の理解不足に繋がったのではなかったかと考えられる。

(態度に対する思い) 陰部洗浄時に笑顔でしてくれて良かったや、だまってやられるより話しをしながらの方が気が紛れるのでよい等、看護師の表情や動作が患者の思いに関係していると考え。態度とは、私たちが人間や事物や場面に対していかなる反応をするか決める一種のかまえを意味する。看護を行う上では、患者に特に関心を持ち、感情や情緒に気遣いながらケアを行う必要がある。

手術という経験は、その大小を問わず常になんらかの不安を伴う。また、手術患者と看護者の関係は、看護者の患者を思いやる誠実な態度と患者の心理を理解する能力に大きく影響されるといわれている。相手を尊重した思いやりのある優しい一声をかけることが患者の気持ちを和らげ、安心してケアを受入れることへと繋がるのではないかと考える。

(手技に対する思い) 陰部洗浄の手技については、看護師の経験年数に関わらず、何年目の看護師であっても患者が不快に感じる事のないよう、基礎看護技術を再教育する必要がある。

また川島<sup>2)</sup>は生活行動援助の技術は、健康の回復や苦痛の緩和や闘病意欲の動機付けという、その患者さん自身の可能性を発揮させる働きがある。この面での技術を確かなものにすれば、身体面のととのえだけでなく、精神・心理面でも前向きな姿勢で医学的治療を受け入れることになるので、医療の効果も十分に発揮できることになると述べている。以上のことから私たち看護師は、看護援助場面において患者とよりよい人間関係を構築し、身体面のみでなく精神面・心理面を通しての関わりが必要であると考えた。

## V. 結 論

以上の事から陰部洗浄時は不快に感じないようにしてほしい、また短時間でいいタイミングや場所を患者が選択したいという思いがある。説明は理解できるよう工夫してほしい。患者の情緒面に気遣った態度で接し、看護師一人できてほしいという思いがあった。

## おわりに

今回、婦人科疾患手術後の陰部洗浄に対する患者の思いを知ることができた。しかし、対象者も13名と少なく質問紙に沿った質問のみで、なぜそう思ったのかまで深く掘り下げて聞くことができていなかった。今後もデータ収集、研究を継続させ、患者の年齢層や職業による思いの相違についても検証していきたい。

## 引用・参考文献

- 1) 宮原晴子：看護管理用語辞典，看護管理用語辞典検討委員会 日総研，403，2001.
- 2) 川島みどり：看護の癒し—そのアートとサイエンス—看護治療学への道，看護の科学社，25，1997.
- 3) 武山満智子訳：ナースと患者，人間関係の影響，医学書院，1966.
- 4) 千野静香訳：患者中心の看護，医学書院，1963.
- 5) 星野文子：看護技術，患者の苦痛への看護，Vol. 44 No. 15，11，1998.
- 6) 日時のり他：婦人科疾患患者が感じる羞恥とその緩和への援助，39
- 7) 篠みや子：看護技術，婦人科疾患患者のケアの盲点，Vol. 33 No. 9，7，1987.
- 8) 赤沼智子：第27回看護総合，患者の看護婦に対する遠慮とその影響因子，1996.
- 9) 滝沢正恵他：婦人科病棟における羞恥場面の基礎調査，日本看護協会関東甲信越地区看護学会収録，148，1993.

〔平成21年3月7日 高知県看護協会看護研究学会にて発表〕